学校だより

１０月号　令和５年１０月２日
足立区立舎人第一小学校
校 長　澁 谷 あ ゆ み

みなさんにとって「平和」とは何ですか?

校長　澁谷あゆみ

９月１日(金)、夏休み明けの児童朝会で、今年８月６日の広島平和記念式典において６年生児童が語った言葉の動画を全校児童に見てもらいました。そして朝会後に、各教室で「私にとって平和とは〇〇です」というテーマでワークシートに自分の考えを書いてもらいました。

私のところに最初に届けられた４年１組のワークシートを一枚一枚読みながら、私の中で「書いてくれた全員の言葉を、みんなで共有したい!」という強い気持ちが沸き起こりました。「平和」という言葉、聞いたことはあるけれど、そんなに真剣に考えたことはないだろう。低学年の子どもたちには「平和」という言葉自体よく分からないだろう。それでも考えてもらいたいという気持ちが今回の取り組みの始まりでした。しかし、届けられた子どもたちの言葉を読みながら、子どもたちは「何気ない日常」を当たり前のこととして何も感じずに過ごしているのではなく、そういう日常の背景にある「平和」ということについて、それぞれに考えたり感じたりしているのだということに気付かされました。

「お父さんとお母さんが仲良く過ごしていること」「おはようと朝起きられること」「お母さんのおいしいごはんが食べられること」「お兄ちゃんとずっと一緒にいられること」「学校に来られること」「友達と遊べること」「何気ない話を友達とおしゃべりできること」「家族が幸せでいられること」そして一番多かったのが「自分だけじゃなくて、まわりのみんなが笑顔でいられること」という記述でした。どのクラスも全員が言葉を書いてくれていました。白紙の子もいましたが、自分の名前はしっかり書き、何回も書いては消した跡が残っていて、一生懸命考えてくれたんだなぁと思いを受け止めました。

学年ごとの成長が、子どもたちの紡ぐ言葉でこんなに強く感じられるのか、ということも驚きでした。低学年や中学年の子どもたちが、平和とは「ケンカやあらそいをしないこと」と捉えているのに対して、高学年の子どもたちは、「ケンカしたり思っていることを言い合ったりしても、その先にお互いのことを理解し合えること」と、平和に対する考え方が深まり、ケンカや意見の相違についての捉えが変化してきていることを、うれしく感じました。

最後に紹介するのは、「世界中の人が嫌な思いをしないで幸せなのが『平和』だけれど、現実世界に『平和』は存在しない。だからこそ、そういう世界を実現したいという人々の願いが『平和』という言葉を生みだしたのではないか」という子どもの言葉です。